

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230



平成30年2月1日
(2018)

第108号

■表紙	1
■年頭に当たって	2～3
■平成29年度合同慰霊祭	4
■クリスマスイベントを実施して	5
■ふるさとお楽しみ便	6
■第71回国立病院総合医学会	6～7
■国立ハンセン病療養所 医療従事者海外研修に参加して	7～8

■「介護員交流研修」を開催して	9
■医療安全研修「SOSシミュレーション」 を実施して	10～11
■施設訪問の感想文(奄美市立朝日小学校5年生より)	11～12
■NST News Letter・おせち	12～13
■加計呂麻島ハーフマラソンに参加して	14
■30年永年勤続表彰を受けて・新人紹介	15
■平成29年度診療統計・人事異動・和光園日誌・編集後記	16

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



緋寒桜とメジロ

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園

園長 加納 達雄

明けましておめでとうございます。平成30年が始まりました。平成の年号は来年の4月までと決まっています。翌月からは新しい年号に変わります。和光園の歴史も昭和・平成に続き、新たな年号へと移ることになります。平成時代が終わるからといって振り返るには早すぎますが、この30年間はハンセン病政策に大きな転換点が生じた特筆すべき時代だったと思います。それに応じてハンセン病行政も大きく変わり、入所者を病者とする医療中心の施策から療養所で暮らす高齢者とする生活本位の施策へと変わってきました。今日の療養所では、過去を全て飲み込んだかと思うほど平然と暮らす入所者が多く、この人達がいつまでも静かな暮らしをして欲しいと願いながら、療養所での仕事が続いています。しかし、時として人生の荒波をくぐってきた人間としての逞しさに触れ、通り抜けてきた人生の長さとその重み、人としての奥深さに和光園で働くことの意味をヒシヒシと感じています。

奄美群島はつい最近国立公園に指定され、さらに世界自然遺産への登録まで実現しそうな勢いにあります。奄美に住む一人として、今の今まで世界に誇る自然が残されていることに大きな誇りを感じます。これも自然が単に残されているというだけではなく、猛毒のハブの存在が

人間の身勝手な破壊を阻止してきた、ということをお忘れてはいけません。生活の場に出てくると危険この上ない毒蛇ですが、自然の守り神としては畏敬の念に値する存在です。奄美に関連することで今年の注目は、明けて直ぐ始まる大河ドラマ、“西郷(せご)どん”です。三十年ぶりの西郷さんの物語。明治維新を駆け抜けた薩摩の英傑としてどのような逸話が登場するのか、奄美と愛加那がどのように描かれるのか、専売制だった砂糖の物語がどのように扱われるのか。特に砂糖は薩摩の圧政だけが前に出てくるが、明治維新の真の原動力であったという事実を奄美の人々の堪え忍ぶ姿を通してリアルに描いて欲しいと思っています。更に楽しみは、お隣の韓国平昌(ピョンチャン)で開かれる冬季五輪とロシアで開かれるサッカーのW杯モスクワ大会です。これらはともにスポーツ大会ですが、世界が平和であって初めて開催が保証されるものです。逆に言えば、これが開催される時には平和にしておかなければならない。いずれも開催国の威信をかけた国際大会ですが、全ての国が協力しなければ成り立たない。つかの間の平和は必ず到来すると期待できますが、その間にも国際情勢はめまぐるしく動き、国内問題などもますます先が見えなくなりそうです。

さて、話題を療養所に移しましょう。奄美和光園は、かつては有屋集落の最深部にあり、山々に囲まれた行き止まりの場所でした。長い時を経て、かつての和光園の敷地の上を道路が走り、その先でトンネルが山を貫き、名瀬市街地と直接繋がる場所となりました。これを契機に周辺の町並みは和光町と名を変え、一等地となりました。今では市街地からトン

ネルを抜けると最初に見える集落が和光園となっています。ここで入所者は園内の慣れ親しんだ場所で思い思いに暮らしています。人々は先祖代々住み着いてきたわけではなく、ましてや好き好んでやって来たわけでもありません。この地での生活が始まったのは当時の国情にありました。今では取り返すことはできませんが、苦難の生活が待っていました。療養所への出入りは厳重に監視されていた時期がありましたが、時を経て平成の時代には誰でも自由に行き来できるようになりました。療養所の開放が進む一方で、入所者も近隣の商業施設などへ出かけ、一市民としても自由に行動しています。和光園の入所者が抱える最大の問題は高齢化です。高齢化とは人間としての成熟を通り越して、心身の衰えが顕在化していくことであり、とりもなおさず“老い”との戦いを強いられる時期に至ったことを意味しています。そのため和光園の職員にとってもこの問題にどのように対処するかを考えることが日課となっています。職員は入所者の生活に寄与する集団となることを目指してきましたが、最終的に行き着いたことは、“みんなで、みんなを見る”というごく普通のことでした。その意味は、職員の心のバリアフリー化でした。入所者は自分が一番落ち着く場所で生活し、この生活に合わせて職員が必要な働きをすることでした。この職員の流動化（機動性の向上）が効率的に機能し、うまく定着したと思っています。職員は、入所者の抱える問題を考える時、「来年を思うな、今やれることをやろう」という合い言葉を使っています。“何々だから危ない、だからやめよう”と考える習慣から、“今やらなくていつやるんだ、そのためにはどうすればいいんだ”と考える習慣に変わってきています。昨年は看護・介護の完成形を目指

そうと書きましたが、実際はもう数年前から既に完成の域にあると思っていました。それは介護一般の完成ではなく、入所者一人ひとりに応じた介護（今日では25通りのパターン）は定着し、それに加えて補足的に入所者のその時の要望や状態に応じて咄嗟の対応をするだけになっていたからです。入所者には、毎日の生活だけではなく、以前からある園内行事、園外レクリエーション、奄美まつりへの参加、新たに始まった看護課の催し、歓送迎会等での交流、等を織り交ぜながら、疲労の残らない範囲で参加できる楽しさを企画しています。そのせいか、和光園を訪れる多くの方々の第一印象が「和光園の入所者の方々は元気ですね」と異口同音に言います。夕方の園内を歩いてみると、一昔前に流行った“限界集落”のように見えますが、入所者の生活に直に触れてみると誰もが生き生きと生活しているという印象を持つようです。

世の中では、医療制度が大きく動こうとしています。病状の程度や病期に応じた医療資源の確保から切れ目のない医療から介護までを一体的に提供する、在宅を前提とした地域医療構想へと動いています。その実現はまだ先ですし、その詳細も地域毎に異なるようですが、おおよそその全貌は見えてきました。規模の大小があり一概には言えないのですが、我々から見ると和光園で既に取り入れている入所者に対する医療と介護の連携を目指そうとしている風に見えます。我々が日頃行っている和光園での仕事に自信を持って欲しいと思います。入所者の満足感を向上させる方法は既に皆さんは実践しているようです。今年も入所者の笑顔が溢れる和光園にしていきたいと思います。職員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

平成29年度 合同慰霊祭

平成29年度合同慰霊祭が11月2日に講堂で行われ、ご遺族並びに入所者、職員合わせて68名が参列しました。

参加者一同が黙祷を捧げた後、加納園長より389柱の御霊に対して慰霊の言葉を述べられ、入所者代表の山田相談係とご遺族代表の方が哀悼の念を表してそれぞれの思いを語られました。続いてご遺族から順番に、御霊に対して静かに手を合わせて献花を賜り、納骨堂の前で焼香を行いました。

昨年から5名の入所者がお亡くなりにな

り、現在では入所者数が26名（11月2日現在）となりました。職員一人ひとりがそれぞれの職務に応じて、残された入所者の支援にあたって後悔がないよう努力を果たさなければならないと実感する日々です。

最後に和光園の歴史とともに歩んで来られた御霊に対して心よりご冥福をお祈りいたします。

福祉室長 磯部 武嗣





クリスマスイベントを実施して

～ 聖歌隊・イルミネーション点灯式～



12月15日(金) 17時15分、和光園聖歌隊が3曲のクリスマスソングで素敵な歌声を入所者に届けました。聖歌隊の歌に耳を澄ませながら目を閉じ、じっくり聴かれている入所者もおりイベントを楽しみにしていたことが伝わってきました。聖歌隊の歌の後は加納園長扮するサンタクロースが入所者一人ひとりにプレゼントを手渡し、皆穏やかな笑顔で過ごされました。

楽しい歌の後は、今年から初の試みでイルミネーション点灯式を行いました。「10」カウントを入所者、職員みんなで数え、0になった瞬間、、、点灯!!となるはずが、「2、1」のタイミングで点灯してしまうアクシデント?サプライズ?があり、大笑いの点灯式となりましたが、入所者との楽しい思い出がまた一つ増えました。寒い中ではありましたが、しばしの間、参加された入所者がイルミネーションの側に行き、「綺麗、明るい」と職員と共に会話をして喜ばれている姿を多く見ることができました。短い時間ではありましたが、入所者と共に喜びを感じることができ本当に嬉しく思いました。

サービス委員 黒木 貴雄



ふるさとお楽しみ便

毎年恒例の「ふるさとお楽しみ便」贈呈式が自治会事務所にて12月12日(火)に行われました。

松岡健康増進課長より入所者に向けて三反園知事のお言葉を園内放送で拝読された後、和光園代表として山田相談係へ「ふるさとお楽しみ便」が贈られました。包装をほどいて早速箱を開けてみると、珍しいふるさとの香りがする県内特産品がぎっしりと詰まっており、見るだけでも楽しい気分になさしてくれます。

数々の珍しい品々をいただき、そして「穏やかで健やかな新年を迎えられますように」との心温まるお気遣いに対して深く感謝いたします。

福祉室長 磯部 武嗣



第71回 国立病院総合医学会



第71回国立病院総合医学会が平成29年11月10、11日の2日間、うどん県で有名な香川県の高松市で開催され、“ハンセン病療養所の看護師が考える「その人らしさ」”を演題に発表しました。1年以上もメンバーで取り組んできた研究を、大切に思いを込めて発表したいと学会に臨みました。今回のポスター発表は、70インチの大型モニターを用いたe-ポスターという

ことで、作成するにあたりモニターに映る色合いはどうか、スライドは3枚以内という制限のある中で、上手く伝わる為にはどんな配置がいいのかなど悩みました。私は初めての学会参加で、演者としても初めてでしたのでとても緊張しました。4分間の発表後、質問に対しても無事答えることができ、終わった後は達成感を得ることができました。他病院・ハンセン病療養所の発表を聞き、ケアへの取り組みや自分達が行っている看護ケアの振り返りができ、今回のこの貴重な経験を今後のケアにつなげていきたいと思いました。研究をまとめ、発表に至るまでにご支援・ご協力を頂いた皆様に深く感謝致します。

病棟看護師 坂口 静香



私は、昨年不自由者棟で研究した、「不自由者棟スタッフの口腔ケアの取り組みー口腔ケアの学習会前後の認識変化ー」というテーマで発表しました。今回、初めての学会参加であったことと、今年が初めてのe-ポスターでの発表ということでとても緊張しましたが、無事に発表を終える事が出来ました。他施設から今後取り組みたいとのことで質問もあり、普段、看護している中での気付きや疑問が他施設でも共通である事を感じました。これまで行ってきた研究が参考になればうれしく思い、貴重

な経験をさせて頂きました。口腔ケアに関するテーマをはじめ、他施設の発表を聞き学んだことを今後の日々のケアに繋げていきたいと思います。これまでご指導、ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。

病棟看護師 川畑 正子



国立ハンセン病療養所医療従事者海外研修に参加して

平成29年12月6日～12月13日まで国立ハンセン病療養所医療従事者海外研修に参加させていただきました。出発時の成田空港は8℃でしたが到着したフィリピンのセブ島では35℃と気温差のギャップに身体がついていくか心配でしたが、体調を崩すこともなく無事8日間の研修を終える事ができました。

今回の研修では、セブ島、クリオン島、コロン島、ルソン島と4つの島をめぐり、スキנקリニック、フィリピン保健省と4カ所のハンセン病療養所を訪問してきました。セブ島ではセブスキנקリニックで発症1年以内の患者さんの皮膚症状や神経障害の検査、らい菌の検査等、国内ではほとんど見ることがないことを見学でき、とて

も良い経験になりました。その後、エバースレイ・チャイルズ療養所を訪問し、フィリピンのハンセン病療養所の実状を目の当たりにすることができました。エバースレイ・チャイルズ療養所での不自由者棟では一部屋に10人ほどの方が一緒に生活をされ、一部屋に一人介護員がいるだけで症状が軽い人が症状の重い人を看ているとのことでした。

クリオン島ではクリオン療養所を見学し、以前は島全体でハンセン病の患者さんが隔離されていた過去を知りました。島ではフィリピン全土から最高で7万人の方が集められ生活されていたとのことでした。現在も、ハンセン病回復者やその家族、療養所のスタッフの家族などが

島で一緒に生活されているとの事でした。

ルソン島マニラでは、フィリピン保健省でフィリピンのハンセン病に対する政策などを聞くことができました。

今回、8日間という長期の海外研修に参加させていただき、入所者をはじめスタッフの皆様にご心より感謝いたします。海外研修で学んだ事を園内で伝達し、入所者が歩

んでこられた過去や歴史、そしてその思いを受け止めながら、入所者が安心して安楽な生活がおくれるよう努力していきたいと思います。

不自由者棟看護師長 田中 浩二



セブスキンクリニック



セブスキンクリニックでの皮膚症状説明風景



セブの町並み（ホテルより撮影）



エバースレイ・チャイルズ療養所不自由者棟



ハンセン病回復者の歓迎コンサート風景



クリオン島

「介護員交流研修」を開催して

寒風が吹き奄美にも冬の到来を感じさせる12月19日(火)に、初めての「介護員交流研修」が当園の会議室で開催されました。和光園から9名、奄美中央病院から6名の合計15名の研修生が参加し、各施設の紹介後、3グループに分かれ、お互いの施設の特徴や普段、介護をしている中でのジレンマなどを話し合いました。

奄美中央病院の介護の紹介では日々の介護の様子やノーリフトを推奨しているとの説明がありました。当園は久永介護長が、入所者一人ひとりをその人らしく生活できるための介護について、介護場面をとおして説明しました。研修企画時はハンセン病療養所と一般の病院での介護では、悩みなど話が合うのか不安でしたが、実際のグループワークでは、お互いの施設での介護についての質問や介護の状況やジレンマ、また、それぞれが介護を行う上で大切にしていることなど、活発な意見交換ができました。奄美中央病院では、訪問介護や通所、リハビリなど、金銭面の問題から介護時間やリハビリの回数が制限されることへのジレンマが語られました。しかし、お互いの施設とも、それぞれの信念や介護観にもとづ

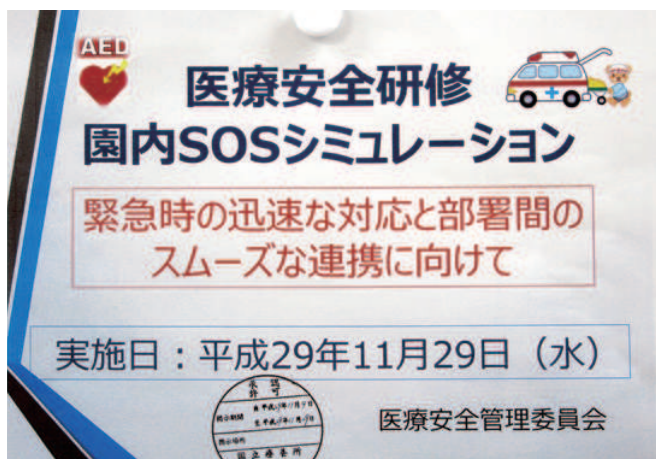
いてよい介護をしたいという思いは同じであることを感じました。研修後、奄美中央病院の介護員からは、「もっと奄美和光園の介護について知りたい」、「和光園の介護員の入所者への思いを知り、これからの介護に活かしたい」との意見がありました。当園の介護員からは、「ハンセン病療養所での恵まれた環境で働けることを再認識でき、これからも入所者に寄り添った介護をしたい」との意見が多く聞かれました。

初めての介護員交流研修でしたが、お互いに学びや気づきのある実り多い研修会となり、次年度も交流研修を企画し、介護の質向上につなげていきたいと思いました。

看護師長 西濱 るみ子



医療安全研修「SOSシミュレーション」を実施して



平成29年11月29日(水)、11月下旬とは思えない暑さの中、医療安全研修としてSOSシミュレーションを実施しました。今年度は一般舎屋外での傷病者発生を想定して実施しました。

緊張した雰囲気の中、傷病者発見後、素早い蘇生対応と園内SOS要請（ハリーコール）、応援者による胸骨圧迫、バックバルブマスクによる人工呼吸が行われました。絶え間ない胸骨圧迫、ハリーコール放送後、園内から一般舎屋外の現場まで、全速力で駆けつけた職員の姿に頼もしさと有り難さを感じました。その後も救急心肺蘇生は続き、園内救急車も到着しました。お互い声を掛け合いながら園内救急車へ移送、そして病棟搬送へ。病棟では二次救命が行われ、

ここでもそれぞれ担当者が適切かつ機敏に行動し、入所者役の〇〇班長は無事蘇生できました。

シミュレーション後の全体評価では、園内救急車要請のタイミングや救急車内での心肺蘇生、受け入れ病棟の対応など具体的な意見が聞かれました。最後に、医療安全管理室長である馬場先生から「いかにスムーズに動けるか、シミュレーションを積み重ねていくことが大切である。また、受け入れ病棟への引き継ぎ、役割を明確にしておく必要がある。」との総評がありました。

今年度は、全コメディカル職員を対象としたBLS（一次救命処置）研修も実施しました。今回のシミュレーションを振り返り、医療安全推進担当者のメンバーとともに課題解決に向け検討を重ね、全職員で入所者の安全と生命を守る活動を続けていきたいと思えます。

今回、ご協力いただきました入所者ならびに職員のみなさまに心より感謝いたします。

医療安全管理者 後藤 祥子





施設訪問の感想文

(奄美市立朝日小学校5年生より)

5年1組 小幡 航太郎

12月4日は、おいそがしい中たくさん
のことを教えて下さり、有り難うございま
した。沢山の知らないことや驚くようなこ
とを学べてとても良い経験になりました。
また、次に和光園を訪問させていただくと

きには、入居者の方々ともお会いして、
実際にお話をうかがいたいなと思いま
した。

これからは正しい理解で誤った考えを
している人がいたら教えてあげて、少し
でもハンセン病で差別を受けた方々の力
になれたらいいなと思いました。

5年2組 福崎 心結

本日はおいそがしい中、たくさんのお話
を聞かせていただき、ありがとうございます
ました。インターネットや本では分からない
ことをたくさん知れてとても勉強になりま

した。今回の見学で改めて差別や偏見を
なくし、人権を大切にしていかなければ
いけないということを感じました。様々な
場所の見学やお話を聞かせていただき、
とても貴重な体験ができました。ありが
うございました。

5年3組 安永 結衣

この度は、私たちにハンセン病問題のことについて色々とお話をきかせてくださり、ありがとうございました。分かりやすいビデオを見せてくださったり、和光園のしせつをまわったりすることでハンセン病の後

遺症で苦しむ人たちや昔の間ちがったハンセン病への考え方などを知ることができました。今後の学習や総合的な学習の時間のまとめに生かせたら良いなと思います。本日はおいそがしい中、誠にありがとうございました。

5年4組 岡 龍希

この前は、ぼくたち5年生のためにきょうなお時間をとってくださり本当にありがとうございました。この前の見学で、治る

時代になっても偏見、差別が続いたという事や、人権の大切さなどがよく分かりました。この見学でいろいろな事を教えてくださってありがとうございました。

NST News Letter

No.4

こんにちは。

いつまでもお口から栄養をしっかり摂り、美味しく、楽しく、食事ができるように、NST（栄養サポートチーム：医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、作業療法士、歯科衛生士、福祉室長にて構成され、多職種からなる専門のチーム）の一員として食事支援に取り組んでいる歯科衛生士です。今回は“口腔内の清潔”をテーマに語らせて頂きます。

食べ物を噛んで硬く感じることはないですか？食べる時に冷たい物、熱い物がしみたりしていませんか？歯ブラシの毛先があたると痛く感じることはないですか？年齢と共に歯を支えている骨が痩せ、歯肉が下がり、根っこ（歯根）が露出します。歯肉が下がると歯が長く見えます。その露出した歯根の境目（歯と歯肉の間）が虫歯になり、さらには歯ブラシがあたると痛くなったりします。

そこで、お口の清潔保持のために大切なことをお伝えしたいと思います。それは歯を残すということ。つまりは口腔ケアです。歯を残そうという運動の中に“8020運動”というものがあります。この運動は80歳で20本の歯を残そうという意味から“8020運動”なのですが、この運動が推奨されてやがて30年ほどになります。歯を残す大切さは昔から伝えられ、そして私自身、その難しさをいつも実感しています。また歯がない方は、義歯をはめる事によって、噛むことを補うことができ、脳の活性化にもつながります。

歯を残す、お口を清潔にするために歯磨きを行います。歯磨きの道具も非常に充実しており歯ブラシだけでも毛先の長いもの、短いもの、硬いものから柔らかいもの、太い物と細い物、毛先が360°覆っているもの、柄の曲がった物まで様々な種類があります。そして、歯と歯の間の虫歯になりや



歯間ブラシフロス



舌ブラシ



タフトブラシ

すい部分の清掃のための歯間ブラシ、デンタルフロス（糸ようじ）や歯並びにあわせて使う歯ブラシ（タフトブラシ）、舌ブラシまで揃っており、本当にどれを使ったら良いものなのか迷ってしまいますよね。要は口腔内の歯の大きさや形、汚れに合わせ、道具を使い分け、歯垢（汚れ）をどのように取っていくかにあります。そのためにも色々な道具を試して頂き、口腔内の清潔を保つということに努力をしてもらえたらと思います。もちろん汚れをとった後は飲み込まず、うがいをします。肺炎や風邪の予防にもなりますので。

次に伝えたいことは歯磨きの頻度です。朝起きて朝一にうがい、そして朝・昼・

夕方、就寝前にする事が一番かと思います。食事をしたらうがい、歯磨きを行うことで口腔内の清潔が維持できます。健康のために共に努力して参りましょう。歯ブラシの交換時期も約1ヶ月程度にして下さい。毛先が開くと汚れが落ちなくなってしまうどころか、歯肉を傷つけてしまう恐れもあります。

ここまで長く、文章を書かせて頂きましたが、一番私が感じることは、いつまでもお口から美味しい料理を楽しく食べて頂きたいということです。お口から食べることは、元気の源。生きる力。いつまでも元気でいられるように口腔内をキレイに保ちながら、風邪を引かない、楽しい毎日を過ごしてほしい、そのためにNSTのメンバーとして学びながら頑張っていきたいと思いますので、何卒宜しくお願いします。

歯科衛生士 窪田 理栄



加計呂麻島ハーフマラソンに参加して

平成29年11月2日(日)、東洋のガラパゴスー奄美大島の南、大島海峡を挟んだ所(大島郡瀬戸内町)にある加計呂麻島でマラソン大会(ハーフ、10km、5km、3km、10km 4人1組駅伝)が開催されたので、完走を目標にハーフの部に参加してきました。

加計呂麻島は、近年では寅さんシリーズ平成7年公開の第48作目(最終話)「男はつらいよ 寅次郎紅の花」の舞台となったところであり、戦前の砲台跡や弾薬庫跡も残っています。また、時代を800年程遡ると、源氏(1185年壇ノ浦の戦い)に敗れて落ちのびて来た平資盛(すけもり)一行が、土地の人々と交流を深めるために伝えたのが始まりとされている祭り「諸鈍(しょどん)シバヤ」が傳承されているところです。島の北部には、1156年平家に敗れて伊豆大島に島流しになった源為朝が、琉球へ行く途中に立ち寄り、この地の女性との間に授かったとされる実久三次郎(さねくさんじろう)を祭った「実久三次郎神社」もあります。

大会当日は、朝5時に起床し、約1時間かけて車で古仁屋港へ行き、フェリーで加計呂麻島へ渡りました。天気も良く絶好のマラソン日和でした。ハーフマラソンは、9時に瀬相をスタートし、北方向の瀬部付近までの約10kmの折り返しのコースでした。最大高低差約40mのアップダウンが多いハードなコースでしたが、島の歴史(戦跡、源平の世、為朝伝説)に思いをはせ、青く美しい大島海峡を眺めては、この海の底で奄美の固有種「アマミホシゾラフグ」はミステリーサークルを作っているのかなと思いつつ、瀬戸内町のテーマソング「大好き瀬戸内町」を口ずさみながら、奄美赴任記念に購入したGPS付ランニングウォッチでペースを見て、ひたすら走り完走しました。

奄美大島のマラソン大会は、今回出場した11月の「加計呂麻島ハーフマラソン」と来年2月に開催される「奄美観光桜マラソン」の2つあるようです。健康のため、毎年この2つの大会には参加したいと考えています。

事務長補佐 岩辻 好夫



東洋のガラパゴス：奄美大島は極めて古い時代に大陸から離れて孤島化し、一度も海没しなかった歴史をもっている。そのため、動植物たちは独自に進化を遂げ、固有種の豊かな極めて貴重な地域となった。4mを軽く超える巨大すぎる「ヒカゲヘゴ」を見上げると神秘さを感じずにはいられない。

源為朝(ためとも)：1192年に鎌倉幕府を開いた源頼朝や牛若丸(源義経)の叔父。保元の乱(1156年)で敗れて伊豆大島へ流され自害したとされている。別名、鎮西八郎。喜界島、佐賀、琉球等に伝説を残している。琉球では、今帰仁村運天に逃れ、その地の人との間に子どもを授かり、その子が琉球最初の王統「舜天」とされている伝説がある。奄美大島大和村では、大ダコを退治したという伝説も残っている。

平資盛(すけもり)：日宋貿易によって財政基盤の開拓を行い、宋銭を日本国内で流通させ通貨経済の基礎を築き、1160年に以後約700年続くこととなった日本初の武家政権を打ち立てた平清盛の孫。加計呂麻島には平資盛を祭る大屯神社があり、奄美大島には平清盛の孫の有盛を祭る有盛神社、行盛を祭る行盛神社がある。グーグルマップで奄美大島の神社を検索すると平家の氏神を祭るとされている巖島神社が5つもあることが分かり、歴史のロマンを感じさせる。

アマミホシゾラフグ：2012年に発見された体長約15cmで白い水玉模様が特徴の奄美固有のフグ。産卵のため直径2mほどの円形の幾何学的な模様、通称「ミステリーサークル」を海底に作る。

30年永年勤続表彰を受けて

私は、昭和63年4月1日に、給食（調理師）で採用になりました。

振り返ると、当時は入園者が189名でした。調理場も特長、一般舎と別々に調理を行っていました。職員も栄養士2人、事務2人、調理師7人、調理助手3人だった事を記憶しています。大勢の中で切磋琢磨し活気溢れていました。現在は、年月と共に入園者も減少している事から、職員も減り現場体制も変化していますが、どの様な形でも、皆で協力しながら仕事が出来環境を頂き有難く思います。又、私生活でも今年で結婚30周年です。この様な節目の時に、30年表彰が頂けた事

に感謝の気持ちでいっぱいです。ひとえにこれまで携わってきた方々に支えられた30年だったと思います。

これからも健康管理に気を付け、入園者の為に心のこもった美味しい食事を提供できる様に日々精進していきます。有難うございました。

調理師長 保 初男



新人紹介

庶務課 共済係 寺田 志織（てらだ しおり）

1月から産休・育休に入られた藤島美咲さんの代替で庶務に採用になりました寺田志織です。

4歳の娘がおり、日々楽しく過ごしています。笠利の屋仁から通っています。

今は分からないことばかりで真顔になっていることが多いかもしれませんが、常に笑顔でいるよう心がけます。

藤島さんが戻られるまでですがどうぞよろしくお願い致します。



平成29年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	入院(人)	退院(人)	延患者数 (人)
11月	187	297	484	44.0	11	72	4	0	0	0
12月	205	311	516	43.0	12	78	9	0	0	0
1月	201	296	497	45.2	11	80	9	0	0	0
合計	593	904	1497	44.0	34	230	22	0	0	0

* 皮膚悪性腫瘍切除術内訳 Bowen病 1件

* 現在、病棟入所者の看護度が上がっているため皮膚科入院診療を制限している

人事異動

(平成29年11月1日～平成30年1月31日)

H29. 12. 31	元島 敏	福祉作業係	辞職
H30. 1. 4	寺田 志織	共済係	非常勤採用

和光園日誌

(平成29年11月1日～平成30年1月31日)

H29. 11. 2 合同慰霊祭
 11. 6 九州三園ブロック会議
 11. 17 施設見学（奄美市立朝日中学校）
 11. 20 医療施設立入検査（名瀬保健所）
 12. 4 施設見学（奄美市立朝日小学校）
 12. 7 職員特別健康診断（～8日）
 12. 8 消防立入検査（大島地区消防組合）
 12. 12 ふるさとおたのしみ便贈呈式（鹿児島県保健福祉部）
 12. 15 クリスマス会（キャンドルサービス）
 12. 22 合同忘年会（奄美観光ホテル）
 12. 28 仕事納め式
 H30. 1. 4 仕事初め式
 1. 10 永年勤続表彰
 1. 27 入所者死亡

編

集

後

記

クリスマス、お正月が慌ただしく過ぎ、ふと詩人で書家の相田みつおさんの「時」という詩を思い出しました。

『アノネ時は金なりなんていうけれどね、時はいのちだよ「いま」というこの時は自分の一生の中の一しゅんだからね』この詩を胸に刻み1日1瞬を大切に過ごしていきたいものです。

奄美の1月2月、花びらが濃いピンク色の緋寒桜が園内や道路沿いで咲き、一足早い春の訪れを感じさせてくれますが、まだまだ寒い日が続いております。皆様どうぞくれぐれも御自愛ください。

編集委員 川畑 たまみ